

学 位 論 文 要 旨

氏 名 新山順子

題 目 保育者養成における人との関わりから展開する即興的な身体表現の実践

社会の変動を背景に、現代の保育者には一層高い資質・力量が求められている。養成機関においては、複雑な社会状況に対応できる質の高い保育者を輩出する使命を持つ。保育者の養成教育は非常に重要であり、現代の保育の本質や保育者の専門性を踏まえた教育課程の見直しは不可欠である。しかしながら、保育者養成においては、担当教員の専門性により様々な授業が行われているのが現状である。そこで、本論では、保育者養成における身体表現の授業に特に着目し、他者と交流しながら即興的に動きを創出する「即興表現」を導入した授業を実践し、その価値を検証する。また、それらを踏まえて保育者養成の新しい身体表現教育の在り方を提示するものである。

全体は、4章構成である。第1章では、現代の保育者や幼児を取り巻く状況を整理した上で、特に身体表現の領域に着目して保育者養成の問題点を指摘し課題を明確化した。また、本論の主題に関連する先行研究を概観し、研究の目的、方法及び内容構成を示した。第2章では、幼児教育における身体表現の歴史的変遷について論述した。また、幼児の身体表現の発達に関する理解を深めるために、実際に幼児の身体表現を観察して、動きの現れ方や発達の特性について述べた。第3章では、保育者養成において、仲間と交流しながら即興的に動きを創出する「即興表現」を導入した身体表現の授業を構想・実践し、その教育的価値を検証した。第3章は、本論の最も重要な部分であるため、節ごとに内容を示す。第1節では、即興と交流に価値を置く授業の特徴と概要について、整理した。第2節では、最も即興性の高い授業を対象に、受講学生の内省を収集し、身体的なコミュニケーションの様相について質的分析・考察を行った。第3節では、前節の研究を発展させ、身体表現の授業全7回分を対象に、受講学生の内省を収集して、学生の学びの特性を明らかにした。第4節では、地域の障害児と保育者志望学生との交流の実践を対象に、学生の学びの過程や学びの様相を明らかにした。第5節では、保育者養成における身体表現の授業の学びが保育実践に有用であるかについて、保育職に従事した卒業生への追跡調査により検討した。最後に、第4章では、本研究の主要部分である第2章と第3章の研究成果を総括して、今後の課題を示した。